

# 算数科学習指導案（略案）

平成 28 年 11 月 18 日（金） 2 校時  
 小学部 1 組グループ 男子 4 人 女子 2 人 計 6 人  
 場 所 小 学 部 1 組 教 室  
 指導者 野口 賢二郎(CT) 大澤津 里沙(ST1) 牛堀 晴香 (ST2)

## 1 題材 「すうじであそぼう I（一対一対応・数字・数量）」

### 2 本時の実際（8/15）

#### (1) 全体目標

教師や友達とやりとりしながら果物が入った箱を持ったり、具体物と数詞を対応付けたりすることを通して、数詞や集合数への関心を高め、1～5までの具体物の数を数えることができる。

#### (2) 個人目標

児童	個人目標
A (1年, 男)	箱の中の具体物を指さして数えたり、1～30までの数詞と具体物を対応付けて数えたりすることを通して、集合数への関心を高め、1～30までの数字を見てその数詞を答えることができる。
B (1年, 男)	箱の中の具体物を繰り返し数詞と対応付けることを通して、数詞への関心を高め、1～5までの具体物の個数を数字で表すことができる。
C (1年, 女)	友達とやりとりをしながら箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞や集合数への関心を高め、1～3までの具体物の個数を数えることができる。
D (2年, 男)	箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞への関心を高め、1～3までの具体物の個数を数字で表すことができる。
E (2年, 男)	教師や友達とやりとりしながら箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞や集合数への関心を高め、正確に1～5までの具体物の個数を数字カードで選択して答えることができる。
F (2年, 女)	教師や友達とやりとりしながら箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞や集合数への関心を高め、1～5までの具体物の個数を数字カードで選択して答えることができる。

#### (3) 指導及び支援に当たって

これまでに児童たちは、前題材「くらべてあそぼう」で大小、多少、長短を感覚的に判断する学習を通して、比較的差の大きい具体物を「大きい・小さい」、「たくさん（多い）・少ない」、「長い・短い」で弁別したり、たくさんあると重くなることの感覚的な経験を積み重ねたりしてきた。更に本題材では、一対一対応の学習や数詞と具体物との対応付けを通して、身近な数への関心が高まりつつある。

そこで本時では、箱の中の具体物である果物と数詞とを対応付けて数える活動を十分設定することを通して、1～5までの数詞や集合数への関心を高めることができるようにしたい。具体的には、以下のような指導及び支援を行う。

##### <導入>

- 児童の注目を促しやすくするために絵本の映像をテレビに映し、画面の丸を指さしたり、数詞の分だけ手をたたいたりすることで、数詞や集合数への関心を高めることができるようにする。[基]

##### <展開>

- 具体物が入った箱を持ったり、具体物を数詞と対応付けたりする活動を通して、数詞に親しみをもち、具体物を数えることへの意欲を高めることができるようにする。[思・判][関]
- 箱を持ったり、動かしたりすることが重くて難しい場合は、誰と一緒に持ちたいかを尋ね、教師や友達と一緒に持つなど、協力したり、やりとりを楽しんだりしながら活動できるようにする。[関][関]
- 箱の中の具体物を数詞と対応付けた後、具体物の個数が正しいか友達に尋ね、称賛されることで意欲的に取り組めるようにする。[基][思・判][関]
- 個別的な学習では、一人一人の実態に応じた個数や興味・関心のある具体物を用意することで、学習への意欲を高めながら数詞を読んだり、個数を数えたりする活動に主体的に取り組むことができるようにする。[基]

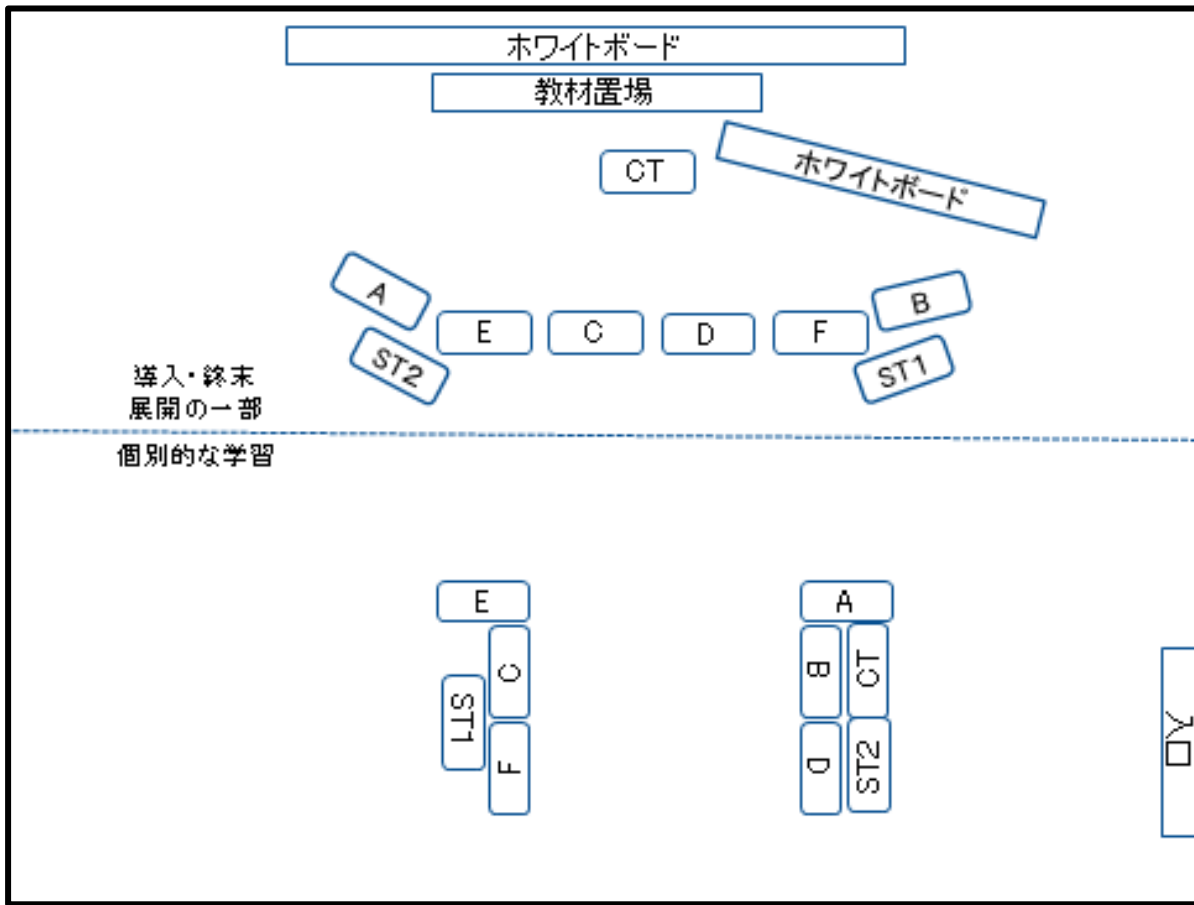
##### <終末>

- 振り返りの場面では、教師が提示した個数の具体物を箱に入れる児童と、箱の中の具体物を数える児童に分かれてやりとりしながら取り組むことで、数詞や集合数への関心を高めながら、数を数えることができるようにする。[基][思・判][関]

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。 2 学習の流れを確認する。 3 テレビ画面を見る。 絵本「まるまるまるのほん」 4 前時までの学習を想起し、本時の学習を確認する。 はこのなかには ○○○が なんこあるかな？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始まりの歌を歌うことで気持ちを整え、意欲的に参加できるようにする。</li> <li>・ 学習の流れを提示することで、全体であること個別であることを理解し、学習の見通しをもつことができるようにする。</li> <li>・ 大きなテレビ画面で絵本を鑑賞することで、児童の集中が持続できるようにする。</li> <li>・ STは、数字が使われる場面では、指で数を表したり、児童と一緒に数えたりすることで、児童が数を意識しやすいようにする。</li> <li>・ 前時で使用した教材や関連する言葉を伝えることで、数の学習をしていることを想起できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビ</li> <li>・ パソコン</li> <li>・ 箱</li> </ul>
展開 (30分)	5 箱の中の果物の個数を数える。 (1) 教師が用意した箱を見る。 (2) 数えてみたい箱を見付け、持ったり、動かしたりする、 (3) 箱の中の具体物を数詞と対応付けて数える。 6 具体物の個数を数える学習をする。(個別的な学習) 【A】 箱の中の具体物を1～30までの数字と対応付けて数える。 【B, E, F】 箱の中の具体物を1～5までの数詞と対応付けて数える。 【C, D】 箱の中の具体物を1～3までの数詞と対応付けて数える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CTは、箱に描かれたイラストを児童に見せ、箱の中身を予想することを通して、児童が果物の数を数える気持ちを高められることができるようにする。</li> <li>・ A, E, Fは、箱の中の具体物を指さして数え、数詞と対応付けて確認することで、集合数への意識を高められるようにする。B, C, Dは教師や友達の数え上げに合わせて、具体物を一対一対応容器に入れることで、数詞と対応付けながら数えることができるようにする。</li> <li>・ 箱の中の具体物を取り出したり、動かしたりすることを通して、集団での学習とのつながりが感じられるようにする。</li> <li>・ Aは、興味・関心のある具体物をいくつか用意し、触れる機会を十分に用意することで、集合数への関心を高めることができるようにする。</li> <li>・ B, E, Fは、具体物と数詞とを対応付けた後に個数を数字カードで伝えるようにすることで、集合数への関心を高めることができるようにする。</li> <li>・ Dは、具体物と数詞とを対応付けた後に個数を2つの数字カードから選ぶことで、集合数への意識を高めることができるようにする。</li> <li>・ Cは、左目がほとんど見えない弱視であるため教具の配置やコントラストなどの工夫を行い、課題を捉えやすくすることで、意欲的に活動できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 果物入りの箱</li> <li>・ みかん</li> <li>・ りんご</li> <li>・ 柿</li> <li>・ 数詞カード</li> <li>・ 一対一対応容器</li> <li>・ ビー玉</li> <li>・ スーパーボール</li> <li>・ どんぐり</li> <li>・ 動物の模型</li> <li>・ ボウリングのピン</li> <li>・ しゃぼん玉液</li> <li>・ 数字カード</li> <li>・ 一対一対応容器 (3・5・10)</li> </ul>
終末 (5分)	7 振り返りをする。 8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が提示した個数の具体物を箱に入れる児童と、箱に入った具体物を数える児童に分かれることで、友達とやりとりしながら課題に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	

(5) 場の設定



(7) 評価

ア 全体評価

教師や友達とやりとりしながら果物が入った箱を持ったり、具体物と数詞を対応付けたりすることを通して、数詞や集合数への関心を高め、1～5までの具体物の数を数えることができたか。

イ 個人評価

児童	個人目標
A (1年 男)	箱の中の具体物を指さして数えたり、1～30までの数詞と具体物を対応付けて数えたりすることを通して、集合数への関心を高め、1～30までの数字を見てその数詞を答えることができたか。
B (1年 男)	箱の中の具体物を繰り返し数詞と対応付けることを通して、数詞への関心を高め、1～5までの具体物の個数を数字で表すことができたか。
C (1年 女)	友達とやりとりをしながら箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞や集合数への関心を高め、1～3までの具体物の個数を数えることができたか。
D (2年 男)	箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞への関心を高め、1～3までの具体物の個数を数字で表すことができたか。
E (2年 男)	教師や友達とやりとりしながら箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞や集合数への関心を高め、正確に1～5までの具体物の個数を数字カードで選択して答えることができたか。
F (2年 女)	教師や友達とやりとりしながら箱の中の具体物を数詞と対応付けることを通して、数詞や集合数への関心を高め、1～5までの具体物の個数を数字カードで選択して答えることができたか。

## 授業計画シート (ver.4)

学部	教科等名	学習集団 (グループ名等)	題材名	総時数 (実施時期)
小・中・高	算数	1組	すうじであそぼうⅠ (一対一対応・数量・数字・数唱)	15時間(11月～1月)

題材の全体目標	
ア	体験的な活動を通して、1～5までの数詞に親しみをもつことができる。
イ	具体物の操作を通して、数詞との一対一対応で1～5まで数えることができる。

児童生徒名	個人目標	児童生徒名	個人目標
A	ア 学級の友達と具体物を対応付けながら配ったり、具体物と数詞とを対応付けて数えたりすることを通して、1～5までの数詞に親しみをもつことができる。 イ 具体物の操作を通して、数詞との一対一対応で30まで数えることができる。	D	ア 教師と一緒に学級の友達と具体物を対応付けながら配ったり、具体物と数詞とを対応付けて数えたりすることを通して、1～3までの数詞に親しみをもつことができる。 イ 教師と一緒に具体物の操作を通して、具体物と数詞との一対一対応で3まで数えることができる。
B	ア 学級の友達と具体物を対応付けながら配ったり、具体物と数詞とを対応付けて数えたりすることを通して、1～5までの数詞に親しみをもつことができる。 イ 具体物の操作を通して、数詞との一対一対応で5までの数の分だけ具体物を取り出すことができる。	E	ア 学級の友達と具体物を対応付けながら配ったり、具体物と数詞とを対応付けて数えたりすることを通して、1～5までの数詞に親しみをもつことができる。 イ 具体物の操作を通して、確実に5までの数の分だけ具体物を取り出すことができる。
C	ア 学級の友達と具体物を対応付けながら配ったり、具体物と数詞とを対応付けて数えたりすることを通して、1～3までの数詞に親しみをもつことができる。 イ 具体物の操作を通して、数詞との一対一対応で3までの数の分だけ具体物を取り出すことができる。	F	ア 学級の友達と具体物を対応付けながら配ったり、具体物と数詞とを対応付けて数えたりすることを通して、1～5までの数詞に親しみをもつことができる。 イ 具体物の操作を通して、数詞との一対一対応で5までの数の分だけ具体物を取り出すことができる。

指導計画					
指導内容<基礎・基本>	次	時数	学習活動	他教科等との関連	
			<思考力・判断力・表現力/人間関係/主体性 を育む視点> ※学習活動の欄に該当する番号を記入する ①学習した知識や技能を主体的に使う / ②自分の考えを主体的に表現する / ③主体的に友達と協力・協働する		
記入例：【書く：小一3】単語を組み合わせ、主語と修飾語、述語を整えて文を作る。(全員)  【数と計算：小一1】 一対一対応をする。 同じ形の物に分類する。 対応させて配る。  【数と計算：小一2】 具体物と数詞と一対一対応で数え、数の関心を高める。  【数と計算：小一2】 具体物を数詞と対応付けて数える。  【数と計算：小一2】 具体物を数詞と対応付けて数える。	1	10	1 給食ごっこをする。<3時間>① (1) 皿は皿、スプーンはスプーンの場所に片付ける。 (2) 盆や皿などを一人に一つずつ配る。  2 自分以外の学級の友達とお菓子を対応付けて配る。①②③ (1) 友達に1個ずつお菓子を配る。 (2) 友達を1～5までの数詞と関連付け、数字や数唱に親しむ。  3 みかんの個数と数詞とを対応付ける。<3時間>①②③ (1) 1～5個のみかんが隠された箱を持ったり、動かしたりしてどの箱にもかんが沢山入っているか予想する。 (2) 箱の中身(みかん)と数詞とを対応付けて数える。 箱が重くて持てない場合は、友達と一緒に持つ場面を設定する。  4 ちぎったみかんを数えたり、配ったりする。<2時間>①②③ (1) 友達と一緒に学校のみかんをちぎる。 (2) ちぎったみかんを数詞と対応付けて数える。 (3) 決まった個数のみかんを教師や友達に配る。	【題材全体を通して】 1 絵本の読み聞かせをする。 「まるまるまるのほん」 2 歌遊びをする。 「数字の1はなあに」  【個別で取り扱う学習内容】 <input type="radio"/> 数字の線結び <input type="radio"/> 数字の書字 <input type="radio"/> 具体物や半具体物を数える。 <input type="radio"/> 数詞を伝えて具体物や数字を取る	日常生活の指導 → 給食指導 生活単元学習 「つくってたべよう」 「でいきんぱをしよう」 → 調理学習  算数 「くらべてあそぼう」 → 大小、多少、長短を体感する。
【数と計算：小一2】 1～5までの数字に応じて、その数の分だけ具体物を取る。  【数と計算：小一2】 釣り上げた魚と数詞とで一対一対応で数える。 【量と測定：小一1】 釣り上げた魚の数の大小に関心をもつ。 【数と計算：小一2】 1～5までの数量について体験を通して理解する。	2	5	5 1～5までの数字カードから、出たカードの数の分だけ具体物を取り出す。<2時間>①② (1) 5までの集合数で具体物を用意し、出された数字カードの数に応じて具体物を籠の中から取り出す。 (2) 児童の実態に応じて、具体物と数詞と対応付ける。 ※ 具体物は果物→玩具→お菓子の順番で行う。  6 魚釣り大会を通して、たくさん釣れた方を数詞で見付ける。(1～5まで) <3時間>①②③ (1) 5までの集合数で魚を用意し、友達と一緒に魚釣りをを行う。 (2) 釣り上げた魚を数詞と対応付けて数え、どちらが多いか持ったり並べたりしてみる。 (3) 出された数字カードに応じて、友達と協力して魚を釣り上げる。	算数 「くらべてあそぼう」 → 大小、多少、長短を体感する。  国語 「もののなまえをあてようⅡ」 → 文字をなぞる。	

<年間指導計画との関連>
○基にした年間指導計画 <記入例：小・国 (○段階)「単元・題材名」> 小・算数(1組)「題材名 もののかず」 小・算数(1組)「題材名 すうじあそび」

<実施時期や時数に関する評価>	
○実施時期 適当・要検討 ( 頃 )	○必要と思われる時数 適当・要検討 ( 時間程度必要 )

ミーティング	授業研究会
<例：○/(総時数)>	<例：○/(総時数)>